

アクト・アクセラレーター ウォッチ
ACT-A WATCH

新型コロナとたたかう国際協働のいま



COVID-19とどう向き合ったか、専門家に聞く／今後の感染症対策で多くの教訓（後編：セネガル）

2023.06.06 保健システム 現場から アフリカ

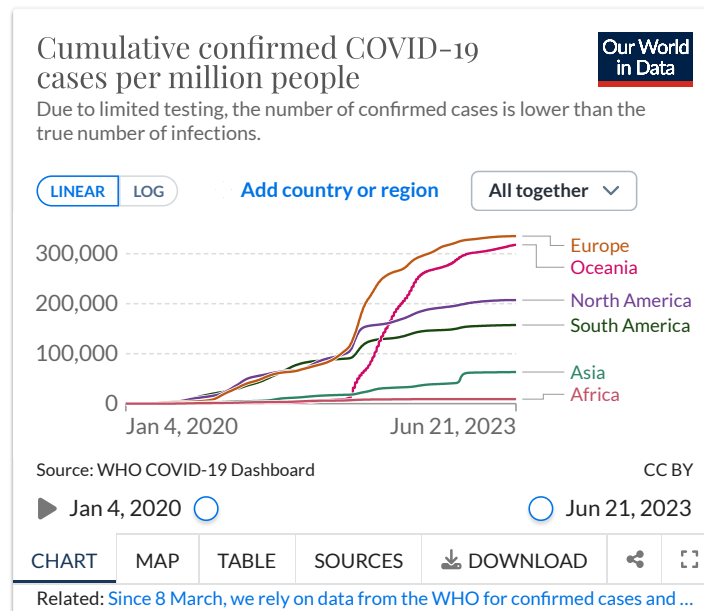


セネガル ダカール市内の病院内の様子 ©U.S. Army Southern European Task Force, Africa

(from [flickr](#) and [Wikimedia Commons](#))

パンデミックの宣言直後から、経済や医療の水準が他の地域と比べて低いアフリカでの爆発的な感染を危惧する声が多くありました。その一例として、東洋経済オンラインには2020年4月13日に「[「アフリカでの感染爆発はケタ外れの悲劇を生む」](#)」という記事が掲載されています。しかし英オックスフォード大の研究者らが運営するデータベース「Our World in Data」によると、地域別の人口100万人あたりの感染者数（累計）は、欧州が33万と最も多く、続いて北米（20万）、南米（15万）、アジア（6万）だったのに対し、

アフリカは9千人にとどまっています。無症状の感染者が多いというCOVID-19の特性に加え、検査や報告の体制の不備から、必ずしもアフリカ各国の実際の状況が統計に反映されていない可能性があります。ただ、[英紙テレグラフが伝えた](#)、「アフリカで死者が続出し、その結果、世界全体の死者数を押し上げる」とするマイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏の予測ほどには最悪の事態にならずに済んだと言えそうです。



人口100万人あたりの地域別累積感染確認数（累計）（[Our World in Data](#)より）

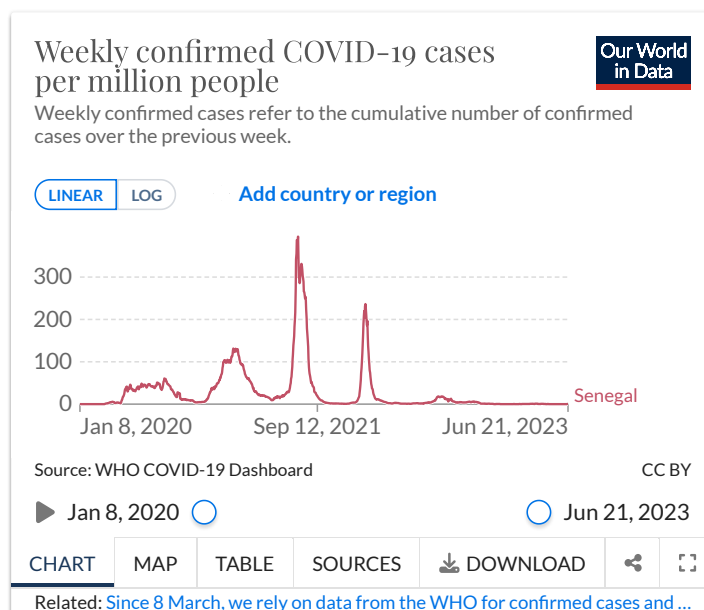
なぜ、アフリカでは実際に懸念されたほどの感染が広がらなかったのでしょうか。西アフリカの主要国の一つ、セネガルのアワ・マリ・コル・セック国務相（元保健・社会活動相）は3月9日、首都ダカールで、「ACT-A WATCH」の取材に対して、「国内や隣国でコレラやエボラ熱といった感染症が流行した際の教訓を踏まえ、レジリエンスの高い保健システムに整備したことが、今回うまく機能した」と述べ、過去に感染症の脅威に直面した経験やその後の対応策が背景にあると指摘しました。



セネガルのアワ・マリ・コル・セック国務相（元保健・社会活動相）

=ダカールの日本大使館、中野智明氏撮影

セネガルでは20年末から21年初めにかけて第2波、21年7月から8月にかけてデルタ株による第3波を経験しました。ダカールの中心部にあるガスパール・カマラ保健センターは、第2波の兆しが見え始めた20年12月、医師と看護師、スタッフの3人で構成する機動班を3チーム発足させました。センターの責任者、ママドゥ・ンバエ医師によると、各チームには他の省庁から派遣された運転手が帯同し、無症状や軽度の感染者の自宅を訪ね、在宅療養を支援しました。患者の病状を定期的に観察し、万が一悪化した場合は、専門病院への入院を手配するなど、感染者の急増によって医療システムの崩壊が起きないように仕組みを整えたと言います。「自宅療養支援の体制は2014年にエボラ熱が流行したことをきっかけに、公衆衛生危機時の対応策として検討された。今回は新しい感染症だったが、私たちのセンターが最初に機動班を稼働させ、その直後に中央政府の施策となって全国展開された」（ンバエさん）。感染者が急増した第3波では、60歳以下を原則として自宅療養とするなどトリアージを行い、機動班がフォローアップする態勢で「乗り切ることができた」（同）そうです。



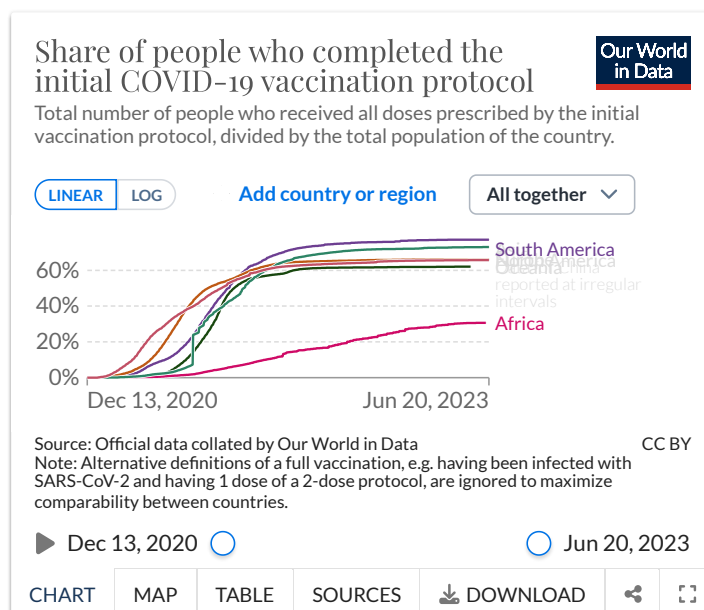
セネガルの感染者数の推移 (Our World in Dataより)



ガスパール・カマラ保健センターのママドゥ・ンバ工医師

=ダカールの同センター、中野智明氏撮影

ACT-Aでは、ワクチンを各国に平等に分配する枠組み「[COVAX](#)」が立ち上がりました。COVAXは、ワクチンをまとめて購入し、低所得国向けには、日本をはじめ、高所得国が資金を拠出し、無償で提供するという野心的な目標を掲げていました。しかし現実には、当初の資金不足に加え、欧米や日本が製薬会社と直接交渉し、優先的に購入したため、アフリカ各国をはじめとする低・中所得国への供給が遅れました。コル・セック国務相は「先進国の（ワクチン）ナショナリズムが剥き出しになり、COVAXはほぼ機能不全に陥った」と批判します。Our World in Dataによると、アフリカ全体で接種完了率は30%にとどまりました。



世界の地域ごとのワクチン接種完了率（Our World in Dataより）

ワクチン接種率が低いにもかかわらず、アフリカでは感染者が爆発的に増えることはなく、さらに欧米や日本などで感染者が爆発的に増えたオミクロン株の流行の際も、感染者数ではデルタ株の際を下回る国が多かったとされています。セネガルの保健省関係者によると、同国で実施された疫学調査で抗体保有率が極めて高かったことが分かっています。若年層が多く、軽症や無症状のまま治癒した人が多い可能性があります。コル・セック国務相は「結果的には（重症の）感染者は予想よりも少なかったかもしれない。しかし今後、新しい感染症に備えて、国内や国際社会のコラボレーション（協力・連携）とコミュニケーションを一層強化する必要がある」と指摘しています。

シェアする

ツイート

一覧に戻る

NEWS

2023.06.06 COVID-19とどう向き合ったか、専門家に聞く／今後の感染症対策で多...

2023.06.05 COVID-19とどう向き合ったか、専門家に聞く／今後の感染症対策で多...

2022.10.21 ACT-Aの外部評価を公表 おおむね高評価の一方、今後の教訓も

2022.09.30 パンデミックの終息に向け、3つのギャップ克服を グテーレス国連事務総長

2022.09.29 最もリスクの高い人々のための検査と治療へのアクセスがカギ ACT-A分...

アクト・アクセラレーター ウォッチ

ACT-A WATCH

新型コロナとたたかう国際協働のいま

[TOP](#) [NEWS](#) [ACT-Aとは](#) [Twitter](#)

[Privacy Policy](#)

JCIE JAPAN CENTER FOR
INTERNATIONAL EXCHANGE
日本国際交流センター

〒107-0052

東京都港区赤坂1丁目1番12号 明産溜池ビル 7F

Tel.03-6277-7811 Fax.03-6277-6712

©Japan Center for International Exchange (JCIE)

PAGETOP